

～浜松市介護サービス協便り～

◆ 浜松市介護サービス事業者連絡協議会 部会別研修会の報告 ◆

施設系サービス部会

令和4年12月13日（火）施設系サービス部会研修会が、オンラインにて開催されました。今回の研修は、介護の人材不足を解消するため、人材定着という視点から今私たちがやるべきことを横尾恵美子氏にご講義いただきました。

講師：聖隷クリストファー大学 社会福祉学部・社会福祉研究科教授
横尾恵美子 氏

テーマ：『人材定着に向けた環境・組織づくりについて
～不本意な離職を減らすために～』

参加者：50名（参加事業所 40事業所）



【講義内容】

『令和3年度 介護労働実態調査』及び講師自身の研究データを根拠に以下のお話がありました。

1. 自分自身が定着するための環境があるか？

給与；労働者として人並みの給与額はもらうべきである。また、施設は特定処遇改善加算を活用するなど給与額アップの努力をするべきである。

休暇；全産業と比べると、介護職は有給休暇が取得しにくいことがデータ上で示されている。せめて全産業の平均取得日数までは取得できるようにしたい。

2. 現在の人材不足状況について

「従業者の不足感は、事業所全体で見ると、概ね60%台」「離職率は14.3%と低下傾向が続く」「勤続3年未満の離職者が全体の約6割」などがあげられる。

3. 介護現場で働く動機・離職動機

「資格・技能が活かせるから…38.2%」「やりたい職種・仕事内容だから…37.6%」「通勤が便利だから…37.2%」となっている。また、「今の勤務先で働き続けたい…約60%以上」である。しかしながら、「職場の人間関係…18.8%」「結婚・出産・妊娠・育児のため…16.9%」という離職動機があり、「収入が少なかったため…14.9%」を上回っている。

また、「人手が足りない」「健康面（新型コロナウイルス等の感染症、怪我）の不安がある」という要因もみられる。

4. 人材定着のためにできること

「採用時研修の受講…有 47.7%、無 49.3%」「過去 1 年間の研修受講…1~2 回程度 58.3%、3~5 回程度 24.8%【無期雇用者】、1~2 回程度 58.6%、3~5 回程度 22.6%【有期雇用者】」であり、人材育成への取り組みの充実を図る必要がある。

また、「介護職が学びたいことと管理職が学ばせたいこと」の相違がみられるので、注意が必要である。

5. 自分自身を知ろう・鍛えよう

介護職は「対人対応」は高いが、「状況対応」（自己コントロール・リーダーシップ・危機管理など）は低い傾向がみられる。「状況対応」は鍛えることができ、鍛えることで人材定着にもつながっていく。

サーバントリーダーシップ（奉仕や支援を通じて、周囲から信頼を得て、主体的に協力してもらえらる状況を作り出す）は、対人援助のプロフェッショナルである介護職は本来得意としており、対象をご利用者→職員（部下等）に置き換えることをして行ってほしい。

<講師よりメッセージ>

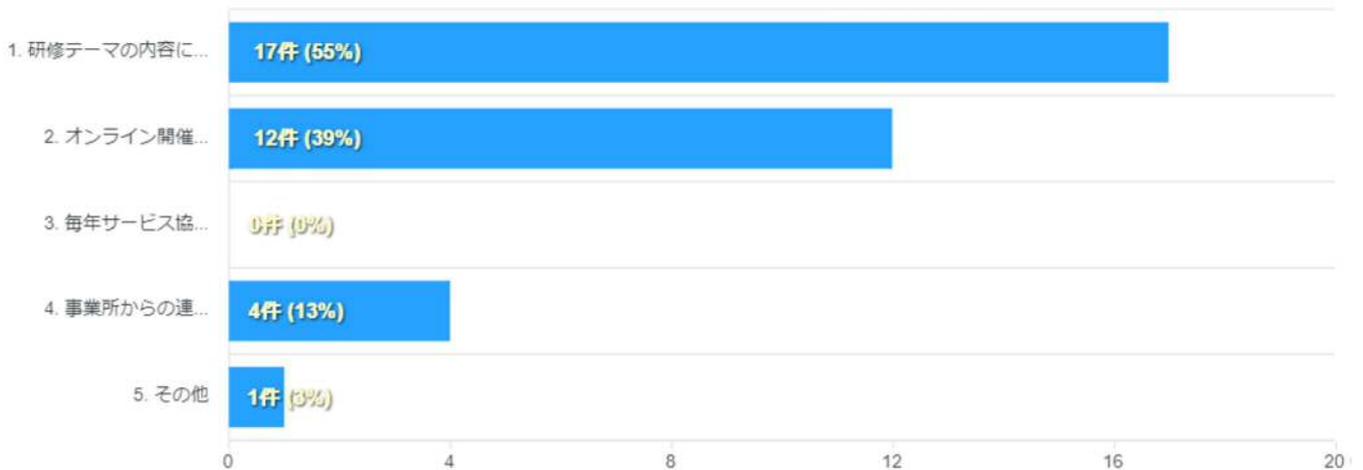
コロナ禍において、これ以上、何を頑張ればよいのか…というところまで介護職の方々は奮闘しています。管理職の方々には、折角の人材（人財）が定着するための環境・組織づくりを、介護職等の現場の声を聴きながら、ぜひとも実践していただくことを願っております。

アンケート結果報告

今回のアンケートは、研修当日、終了後にチャットのURLをクリック又は、QRコードを読み取っていただく方式で行いました。結果、参加者 50 名に対しアンケート回答者 31 名で回答率は 62% でした。

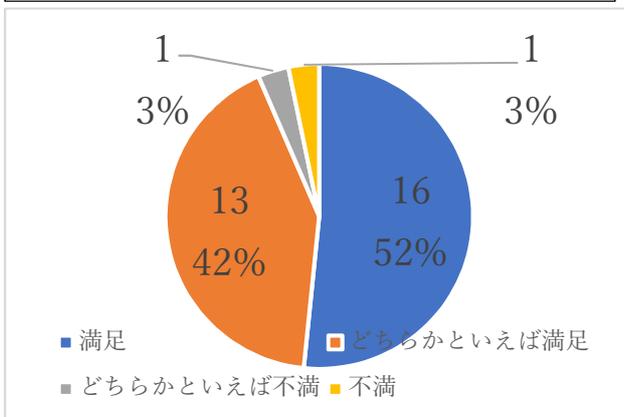
アンケート結果は、今後の研修をより良いものとしていく資料として活用させていただきます。ご回答いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

今回の研修に参加した理由を教えてください



「研修テーマの内容について学びたかった」というご意見が最も多かったです。今後も皆様にご興味を持たれるような研修テーマとなるよう努めてまいります。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、止む無くオンライン研修とさせていただきますが、移動時間短縮等のメリットもあるため、次年度以降は感染状況も見ながら、集合研修とオンライン研修とのハイブリット研修などの検討を重ねてまいります。

研修全体を通じた満足度を教えてください

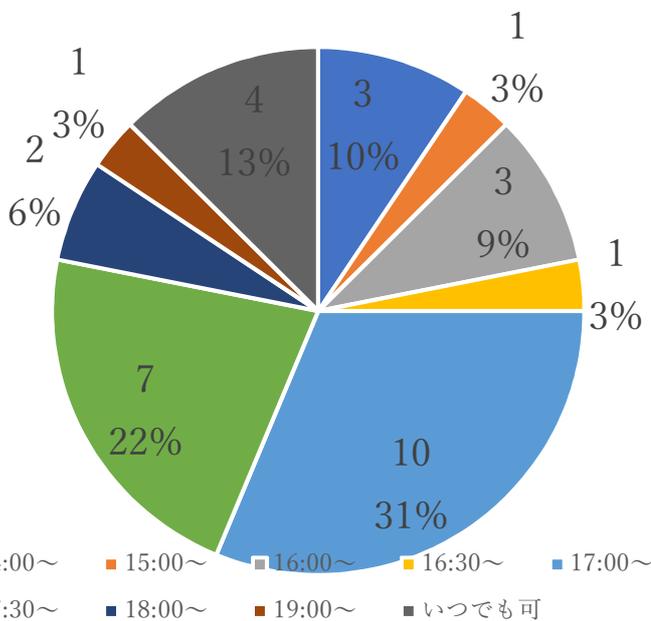


- 満足・どちらかといえば満足を選択の方 94%
 - ・内容がわかりやすく、理解が進んだ。
 - ・興味深い数々のデータやそれを基にした考え方が学べた。
 - ・冒頭から給料の話で面白く、共感を感じるところがあった。
 - ・管理職として、職員定着という重大なテーマについてのヒントをもらった。
 - ・本日のデータを活用し、職員と対話していきたい。
 - ・他職種として聞けそうで聞きにくい、そして言えそうで言えない介護職側の思いがしっかりとわかった。
- どちらかといえば不満・不満を選択の方 6%
 - ・思っていた内容の研修ではなかった。
 - ・回線が安定せず、聞き取りにくい所があった。
 - ・まったくつながらず、何もみることができなかった。

今後の研修についてのご意見、取り上げて欲しいテーマを教えてください

- 人材教育
向上心のある職員チームの作り方、管理者や中堅職員の教育、プリセプター制度の進め方、事務職員の立場向上、OJTの進め方
- 専門性の向上
ターミナルケア、うつ病などの困難事例への対応、カスタマーハラスメント対策、
(グループホームにおいて) 医療行為が必要となった時の判断や対応
- 制度改正
介護保険制度の改正、低所得者への対応、LIFEの活用、通所介護の未来と特別養護老人ホームの未来

オンライン研修について、参加しやすい時間帯を教えてください (複数回答あり)



今回のオンライン研修が行われた時間帯でもある「17:00～」を最も多く希望されている結果となりました。

次に「17:30～」というご意見が多く、勤務終了後にご参加いただいていることが想定されます。

次年度の開催時間の参考にさせていただきます。

部会長より総括

今回の研修会では、介護職の離職につながる要因を、給与や給与上昇率、有給休暇取得率、研修の受講状況など様々なデータを活用し他職種と比較しながら分析され、離職防止の取り組みを根拠を持って行う必要性を教えてくださいました。

また、先生の『介護職員のEQ (感じる知性) の傾向』の研究から、介護職員は「対人対応」は高いが「自己対応」・「状況対応」が低く、特に「リーダーシップ」が低いと分析されましたが、併せて「強い集団指導力」のリーダーシップでなく「奉仕や支援を通じて周囲から信頼を得て主体的に協力してもらえる状況を作り出す」リーダーシップもあるとのアドバイスもいただきました。

『介護職の尊厳が守られる』職場になって欲しいとの先生の願いを真摯に受け止め、私たち一人ひとりが「人材定着に向けた環境・組織づくり」に取り組んでいきたいと思っております。

入居系サービス部会

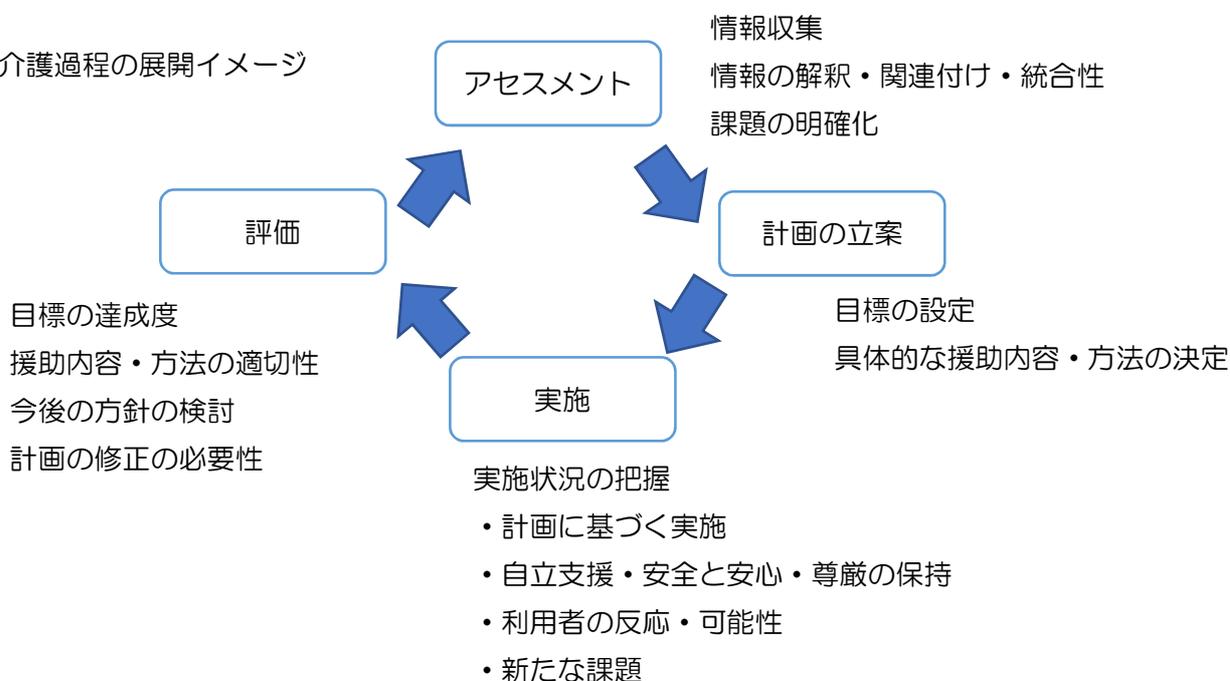
令和4年11月29日、入居系サービス部会の研修会がWebにて開催されました。テーマは「介護過程の展開」で、講師は、静岡県介護福祉士会 中邑 愛（なかむら あい）氏です。

介護過程と聞くと苦手と考える介護職員は多いと思いますが、普段の仕事の中で自然に行っているものでもあります。しかし意識せずに仕事として進めてしまっていることが多く、根拠や目的を理解せずにケアをしている可能性があります。

介護職は、その場の思いつきでなんとなくケアを提供するのではなく、「目的・根拠」を持って科学的に介護ケアを提供しなくてはなりません。そのために、介護の現場では、介護支援専門員が作成したサービス計画書をふまえ、介護職の視点に基づいたアセスメントを行い、介護計画を立案し、具体的な介護を実践しています。

この過程を踏むことで、利用者一人一人について尊厳の保持や自立支援の視点に基づいた利用者を主体とした個別ケアの実践を可能にすることができます。

●介護過程の展開イメージ



介護福祉士の専門性として、「利用者の生活をより良い方向へ変化させるために、根拠に基づいた介護の実践と共に、環境を整備することができること」とされています。

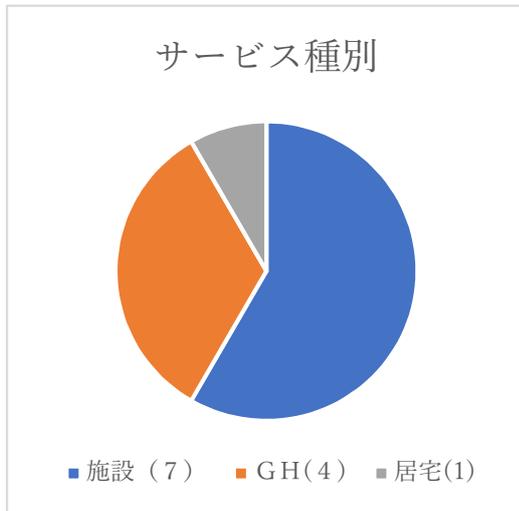
今回の研修では、過程の一つ一つのプロセスを専門性を持って捉え、正しい順序で行うことで、利用者の心身に合った質の高い個別ケアが提供できると学びました。

介護職が経験や勘だけで仕事を行っていたら、介護の質が統一されず、提供される介護はバラバラになり、利用者が望む生活は実現できません。「なぜその介護を行うのか」という根拠があるからこそ、皆が同じ方向を向いてチームとしての介護を進めていくことができるのです。

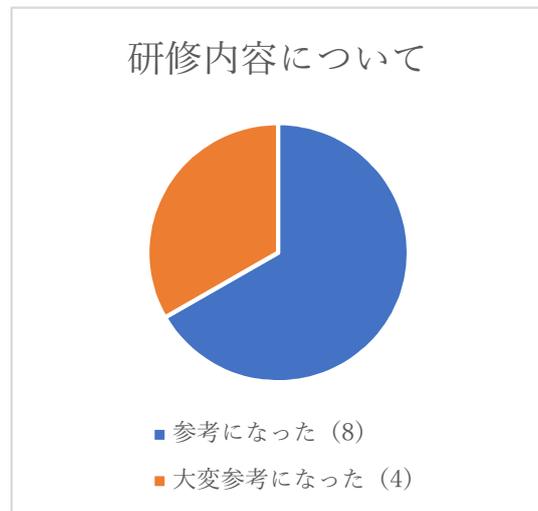
改めて、業務的な負担はあるとは思いますが、介護過程を実践することで、職員の意識が利用者に向くきっかけになると感じましたし、取り組みの先には多くの成果があるように思います。一気に進めようとせず、出来ることから始めてみようと思いました。

アンケート集計結果（12名）

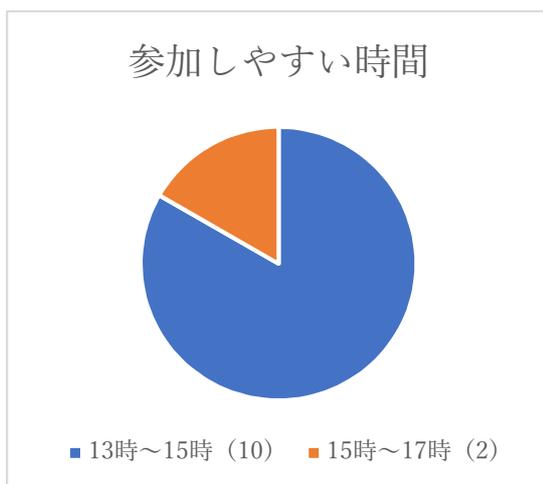
1. サービス種別を教えてください



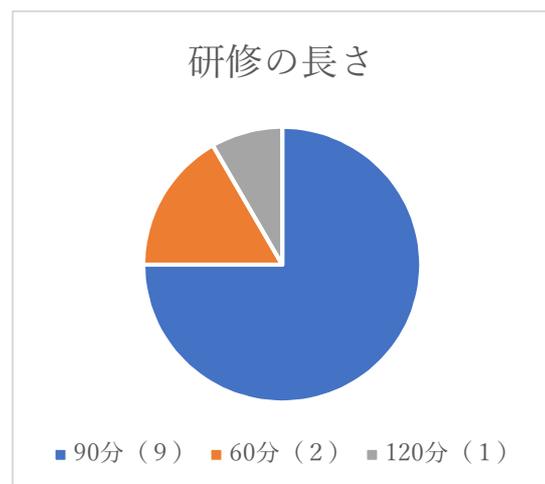
2. 研修内容について



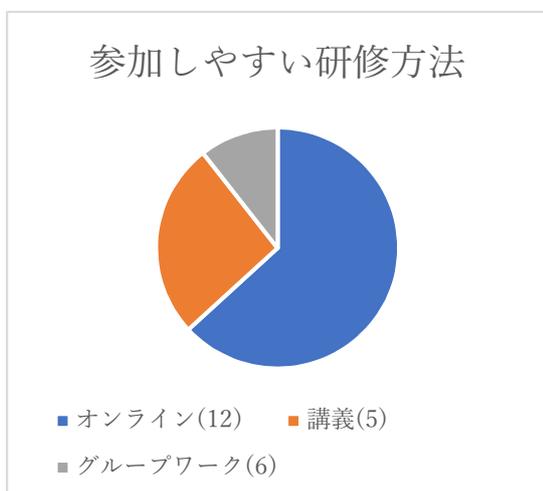
3. 参加しやすい時間帯はいつですか



4. 研修の長さはどの位が適切ですか？



5. 研修方法について



6. 参加したいと思う研修のテーマを教えてください

看取りについて	高齢者虐待予防と対応
チームワークの構築方法	成年後見・日常生活自立支援事業
認知症ケアについて	技能実習生受け入れについて
コミュニケーション	ACP
困難事例検討会	腰痛対策（介護機器）
接遇	事故防止対策
人材確保	人材育成
魅力ある職場づくり	家族対応

7. その他ご意見

- ・今回は介護過程の展開をわかりやすく教えていただきました。職員への伝え方に悩んでいたのが参考になりました。ご利用者が施設で自分らしく楽しく安全安心した生活をしていけるか、もっと深く考えられるように取り組んでいきたいと思います。
- ・時間の作り方、いくらあっても足りないと感じる。
- ・大変参考になりました。まずは自分が学んだことを活かして記録したり、目標を立てたりしてみたいと思いました。ありがとうございました。

福祉用具系サービス部会

令和4年10月16日（日）「浜名湖ガーデンパーク」にて「労福協まつり」が開催され、福祉用具系サービス部会として用具を展示いたしました。



コロナの拡大により「労福協まつり」が3年振りの開催となり、それに併せて福祉用具系サービス部会の出店も今回3年振りとなりました。屋外での展示となるため、外で使用できる「電動車いす」や「歩行器」を展示し、多くの方に触れて使用していただきました。他にはりハビリ器具「パワーアシストハンド」、コミュニケーションロボット「パロ」も展示いたしました。

3年ぶりの開催でしたが当日は10月と思えない暖かい陽気となり、コロナ禍ではありますが約16,000人の来場者数と多くの方が来場されました。展示場所は入りロゲートから近く、場所的にも多くの方に見ていただくことができました。

今後も多くの方々に、福祉用具を知り触っていただくことで、用具の「使用具合」「必要性」を理解していただける活動を行っていきたく思います。

また、令和4年12月6日（火）イオンモール浜松市野シンフォニーコートにて浜松市主催の「高齢者いきいきフェア in 東区」が開催され、福祉用具系サービス部会として介護ロボット等を展示いたしました。



福祉用具系サービス部会の出店は、今年で3年目になります。今年度の展示は初展示となるフランスベッドの「寝る・座る・立ち上がる、までをサポート」する「マルチポジションベッド」を中心に、コミュニケーション介護ロボット「LOVOT (ラブット)」、対話時の声を聴こえやすくする「聴こえ♪ルンです」や「電動車いす」など、計12点の用具の展示をしました。

午前中は、来場者は少なかったですが、お昼前頃からは幅広い年齢層の方が来られ、テレビでしか見たことが無かった介護ベッドの動きを、実際に見たり使用することができ、「両親が今後介護になった時の参考にしたい」という声もありました。

福祉用具の展示会を行う事で、幅広い年代の方に「見る」「触る」「使う」ことをしていただき、福祉用具を身近に感じていただくことができました。



通所系サービス部会

日時：令和4年11月11日(金)18時～19時

開催方法：オンライン（Zoom）

研修内容

講師：天王あきは薬局 管理薬剤師 鈴木謙市 氏

テーマ：「薬の基礎知識」

令和4年11月11日通所系サービス部会研修会がオンライン開催されました。今年度の研修会は天王あきは薬局管理薬剤師鈴木謙市氏をお招きし「薬の基礎知識」をテーマに薬の基本知識を学びました。

薬の基礎知識として、便秘症、高血圧、糖尿病、認知症など高齢者が患う疾患への治療薬などについて学びました。

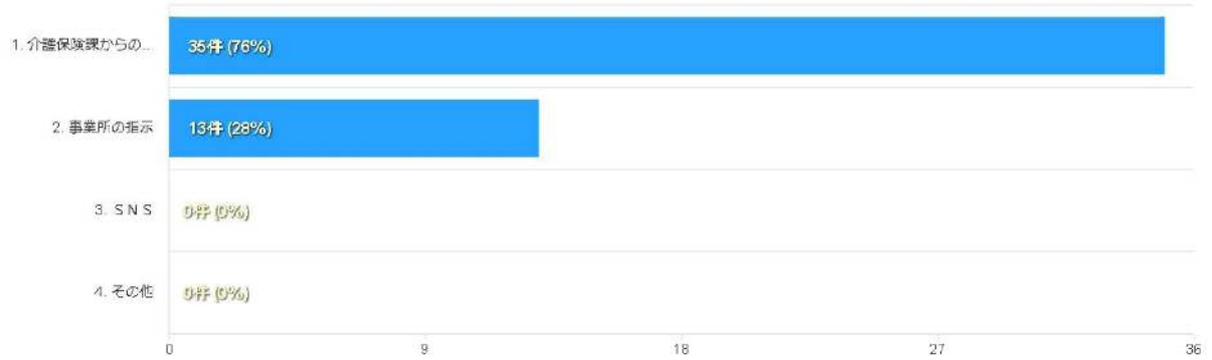
薬は、主な作用を期待して服用するが、副作用があり観察が必要な場合があります。高血圧症の方が服薬する薬は特に注意が必要なものがあり、飲み忘れからの重複服薬（二重服薬）は生命に危険を及ぼすこともあるとのことでした。また、便秘薬の説明では、使用回数が長期的、使用量が増加することで、主な作用が弱まってしまう場合があることや、薬によって吸収する器官が違い、数時間で効果が確認できる薬から、数日時間を要する薬まであるとのことでした。在宅で生活している高齢者にとって、服薬は注意すべき生活の一部であることが改めて理解できました。

令和4年度の研修会は、令和3年度に続き新型コロナウイルス感染症対策としてオンライン開催とさせていただき、56事業所と多くの事業所から参加いただくことができました。アンケート結果については、研修参加の理由として、「薬の基礎知識について学びたかった」が87%と高評価を頂きました。満足度について、かなり満足43%、まあまあ満足50%と、93%の参加者に満足と評価頂きました。引き続き、アンケート結果についての評価を行い、次年度に向けて浜松市介護保険サービス事業者にとって有意義な勉強の場となるよう邁進してまいります。

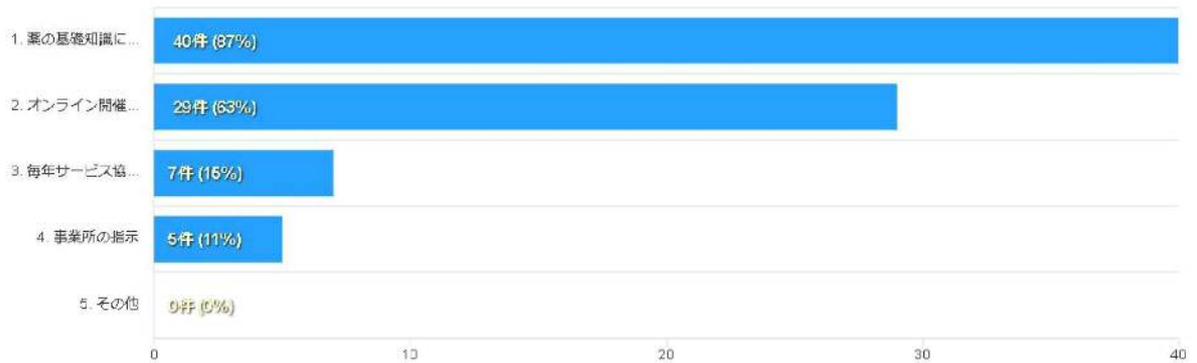
正しい薬の知識で、正しい治療を行う事が地域で生活できるベースになると学びました。日々進歩する医療分野と介護が融合できるように、引き続き浜松市全体で学びを深めたいと感じました。

アンケート集計結果

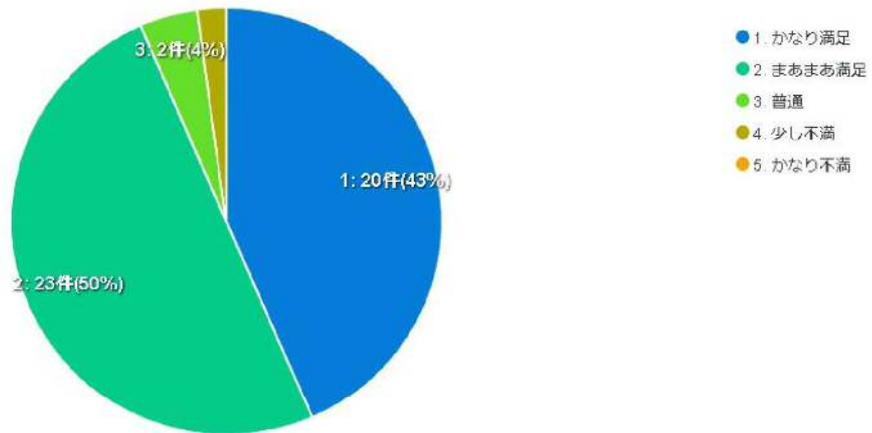
今回の研修会を知ったきっかけを教えてください。(複数選択可)



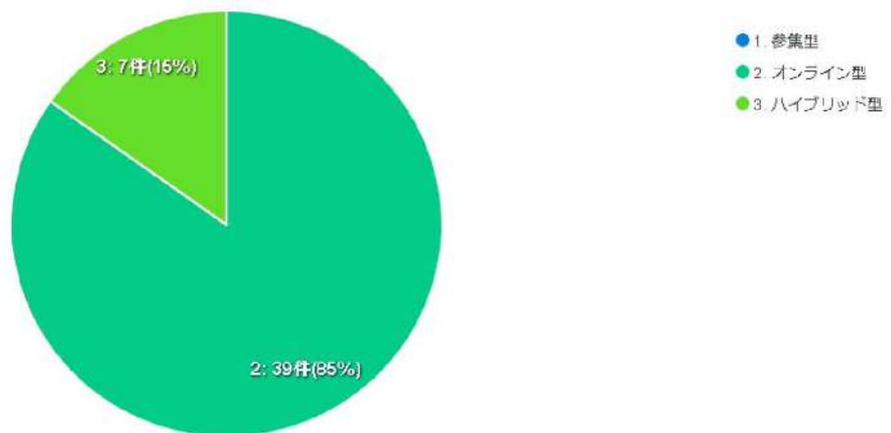
今回の研修に参加した理由を教えてください。(複数選択可)



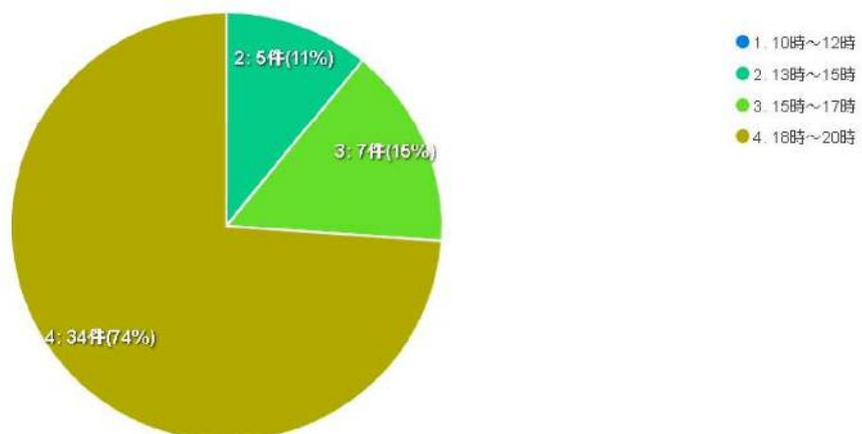
研修内容について、満足度を教えてください。(1つ選択)



今後希望する開催方法をお選びください。(1つ選択)



研修開催時間について、参加調整しやすい時間帯をお選びください。(1つ選択)



訪問系サービス部会

令和4年11月18日（金）訪問系サービス部会研修会をZOOMにて開催いたしました。今回の研修会は、介護現場でのコミュニケーション向上させていくために私たちができることについて、介護・医療職専門コーチの三田村薫氏にご講演いただきました。

講師：コミュニケーションオフィス 3SunCreate（サンクリエイト） 代表 三田村薫氏

テーマ：「介護事業所のためのチームワーク向上研修

～チーム力強化に必要なコミュニケーションとは？～

参加者：33名

【講義内容】

1. コーチングとは

- ・ 引き出す（目標達成に必要な答えを自ら考える。考えを整理する）
- ・ 自立する（自分で考え工夫するので主体性が生まれ、変化に柔軟に対応することができる）
- ・ 自発的（双方向のコミュニケーションで「気づき」が生まれ部下のやる気が引き出される）
- ・ コーチングの3要素（傾聴・承認・質問）

2. 現場のスタッフとコミュニケーション取れていますか？

- ・ 多くの退職者の共通した退職理由は、「職場で悩みを聞いてもらえなかった」「悩みを聞いてくれる人がいなかった」ということです。
- ・ 信頼関係がないと意思疎通は成り立たない

3. タイプ別の効果的なコミュニケーションの取り方

① デレクタータイプ ② プランナータイプ ③ クリエイタータイプ ④ サポータータイプ

自分のタイプを診断してみましょう！

■デレクタータイプ

- 正義感が強い方
- 人間関係よりも仕事優先する
- 決断力がある方
- 自分の思い通りにいかないとイライラして他者に当たってしまうことがある
- 他者の保身的な態度を見るとイライラする
- 思ったことは包み隠さず言うてしまう
- 報告を受けるときは結果から言って欲しい
- 期待されると燃える方
- 他者からペースが早いと言われる
- 結果が全てだと思っている

D

■クリエイタータイプ

- 新しいことにチャレンジするときは、ワクワクする
- 計画を立てるのは苦手だ
- 細かいことは気にしない
- 飽きっぽい
- アイデアが豊富で創造的だと思う
- 何より自由が大切
- 他者から「人の話を聞いている？」と訊かれることがある
- 社交的な方だと思う
- 初めての人と仲良くなるのが得意
- ルールや規則が嫌い

M

■プランナータイプ

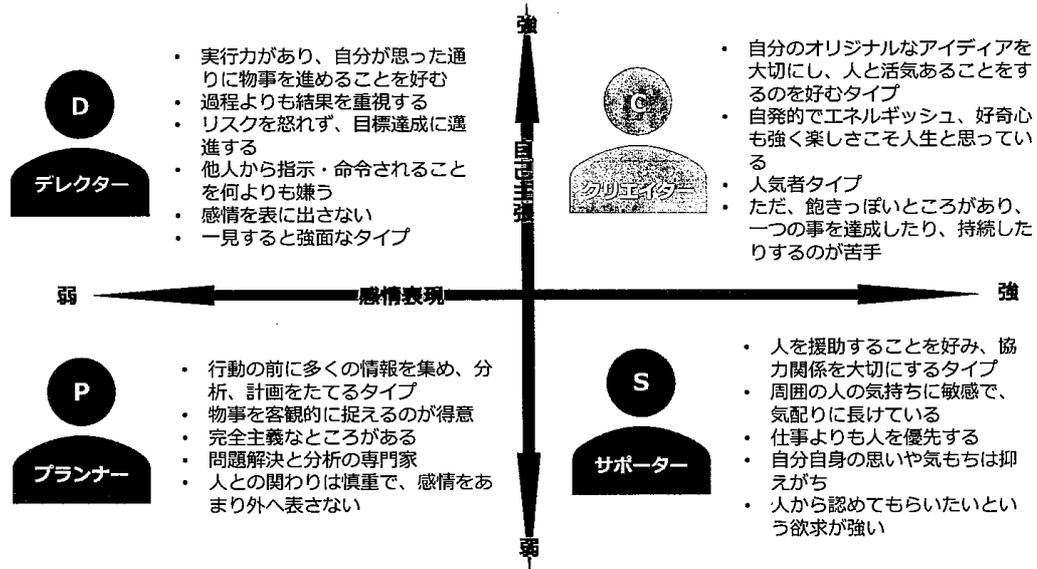
- 他者からは頑固や真面目と言われる
- 孤立していても気にならない
- 大人数が苦手
- 自分の考えや思いを話すのは苦手だ
- データやリストなど、多くの情報を集めてから物事に取り組む傾向にある
- 分析することが好き
- 粘り強い方だと思う
- 新しいことに取り組むのは苦手だ
- ルールや規則がないと戸惑う
- 計画を立てるのが好き

P

■サポータータイプ

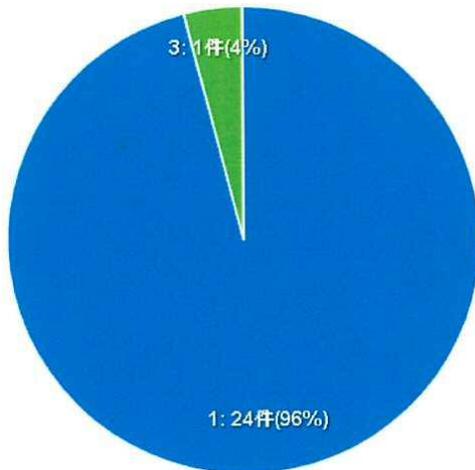
- 決断するのに時間がかかる
- 他者から期待されると多少無理をしても応えようとする
- 人から頼まれたことにはNOと言えない
- 対立を避けるために自分が我慢すればいいと考えがち
- 大勢の人の中にいるだけで疲れる
- リスクを冒すことは避けたい
- 人をサポートすることは苦ではない
- 広く浅くより、深く狭い人間関係を築く傾向にある
- 常に他者が「どう思っているのか？」が気になる
- 目標や目指すべきゴールに関心がない

S



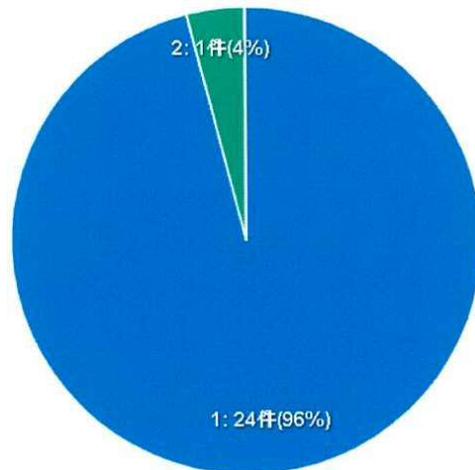
アンケート集計結果（回答：24名）

1. 研修内容についての意見・感想等



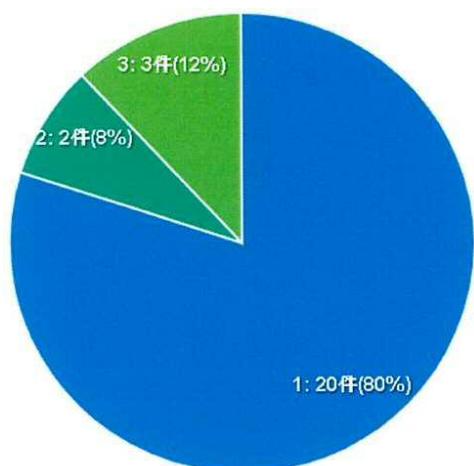
- 1 大変参考となり、今後の自分の仕事に活かしていきたい。
- 2 内容的に難しく、すぐには仕事に活かすことはできないが、内容の重要性や必要性は十分に感じ取れた。
- 3 自分が思っていた研修内容と違っていた。
- 4 その他

2. 会場と時間帯について



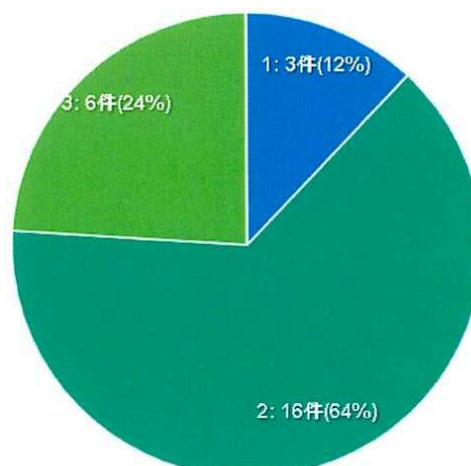
- 1 オンライン開催・開催時間帯ともに参加しやすかった。
- 2 オンライン開催はよかったが、開催時間帯の関係で参加することが大変だった。
- 3 開催時間帯はよかったが、オンライン開催のため参加することが大変だった。
- 4 オンライン開催・開催時間帯ともに参加することが大変だった。

3. 今後の研修会についての開催方法について



- 1 オンライン開催
- 2 集合開催
- 3 オンラインと集合のハイブリッド開催

4. 参加しやすい時間帯について



- 1 10時～12時
- 2 13時～15時
- 3 15時～17時
- 4 18時～20時

5. 今後の研修について

- ・ コミュニケーション能力向上のためのロールプレイなど
- ・ 個別支援計画書の作成について
- ・ 若者向けの、意識改革できるような内容
- ・ 本日の研修から職場での対応に参考になりました。困る利用者様へのコミュニケーション対応などもお願いしたいです。
- ・ 退職率が高い介護職なので一人一人の面談の仕方 内容等の研修もして頂けたら有難いです
- ・ 身体介護での清拭とオムツ交換
- ・ 介護職員の技術向上について、職場の雰囲気作りについて、身体拘束廃止・虐待防止について
- ・ コーチングなど 職員育成に関する研修、マネジメント研修
- ・ 人間関係の悩みを解消または軽減できる手法について知りたい。

居宅系サービス部会

居宅系サービス部会研修会を、令和4年12月19日「多職種連携について」をテーマにZoomを使用し、前半は、浜松市生活自立相談支援センターつながり浜北の紹介、浜松市 浜北・天竜障がい者相談支援センターの紹介、地域包括支援センターの紹介・事例報告、ケアマネジャー4名から多職種と関わり援助を実施した事例を発表していただきました。

後半は、多職種連携で良かった点や困った点などを、グループワークで活発な意見交換を行いました。

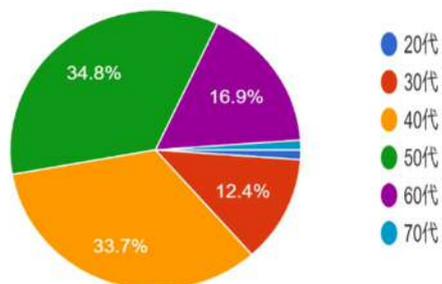
ケアマネジメントでは、利用者の問題以外にも、家族が問題を抱えているケースも多く、ケアマネジャーとして支援を求められる事がある。今回の研修では、つなげる事業所やつなげ方などを確認する事ができ、利用者の自立支援に向けた相談援助が行える『多職種との連携』を学べる場となりました。

「令和4年度多職種連携について」アンケート集計

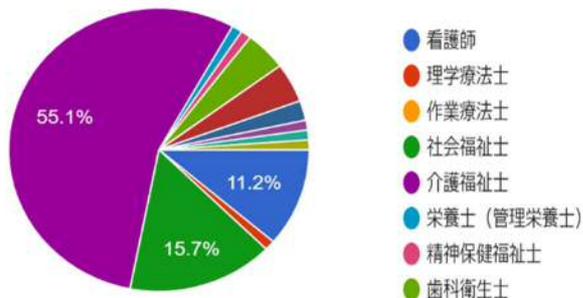
令和4年12月19日（月）13：30～15：30（120分）Zoom開催

・アンケート回答：89件

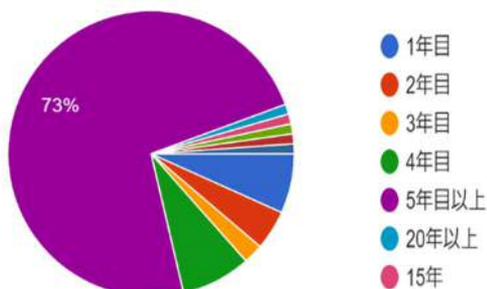
1, 年代



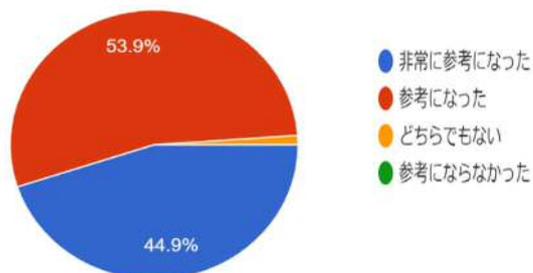
2, 基礎資格



3, 経験年数



4, 研修を受けた感想は如何でしょうか



5、「令和4年度多職種連携についての研修」どのような所が「参考になった」「参考にならなかった」のか教えて下さい。

- ・色々な経験をしているケアマネさんがいるのがよくわかった。
- ・就労支援について、B型は年齢制限がなく、本人の意欲や就労継続できそうであれば参加出来る事。
- ・事例を聞いて具体的にどのような状況で相談していいのか分かった。
- ・連携をすると一人でケアマネが抱えることなく幅広く利用者のケアを行うことが出来ること。
- ・グループワークでは実際に今から動いていく中で、いつ、どのようなタイミングで関係機関につなげていくのか、悩んでいるところも共感でき、自身でもとても参考になった。
- ・つながりや障害者相談支援センターにどのようなケースを相談するとよいか、どのような対応をしてもらえるかなどを知ることができた。
- ・経済的困窮や障害のケースに対しても関わっていく機会があるので、他のケアマネジャーの事例発表も参考になりました。
- ・他施設のケアマネと交流する機会がほとんどないため、意見交換ができて良かった。
- ・他の職種がどのようなことができるのかを知ることや相談をして顔が見える関係作りをすることが大事であること。
- ・つながりさんの説明が分かりやすく良かった。お恥ずかしい話、この機関を知りませんでした。今後連携できそうです。助かりました。
- ・4人の事例紹介が分かりやすく参考になりました。障害福祉サービスとの併用の関わりが少ない為、障害者相談センターの方の話が聞けて良かったです。
- ・生活困窮や障害など、介護保険外のサービスへのつなぎ方や、具体的な事例が出て参考になった。
- ・あまり経験することのない事例をグループワークでも聞くことが出来た。そういう時にもこの機関に連携を図ればいいんだと再認識し「浅くてもいいから広く自分の物としてのきっかけ作りとなる研修」に納得できる内容だった。
- ・ケースによってつながりや障がい者相談支援センターにつなげることで支援の役割分担がやりやすくなるということが改めてわかった。
- ・ケアマネは対象者が入所や死亡してしまえばその家庭に訪問することはないが、ご家族に支援が必要な場合でも多職種連携ができていれば、家族への支援は継続される。多職種連携（特に家族への支援体制）の必要性を再確認できた。
- ・普段関わるのが少ない事業所の説明が聞けて、参考になり、心強く思いました。
- ・他職種連携は常に意識をしていましたが、障害の機関との連携をどのようにしたらいいのか？障害者手帳を持っていない方はダメなのか？と、わからないことも多く、連携できていませんでしたが、事例を聞いていると同じようなケースが多々あり、もっと早く連携すればよかった、と感じました。今後、何でも相談していきたいと思います。
- ・居宅介護支援で対象者と関わる中で、その家族や地域の方、ペットなど様々な関わりや問題がある時にケアマネジャーがどこまで踏み込んでいいのか。類似の悩みや問題を抱えているケースを持っており、共有や関係機関を改めて知ることができ参考になりました。

- ・入所中の 60 代の障害者の方のこれからをどう支援していったらいいのか、相談窓口含め勉強になりました。
- ・つながり、相談支援センターの具体的な事業紹介、制度の背景を聞いてよかったです。また、生活保護の支給計算額も、生活困窮の度合いを客観的に見る指標になることも参考になりました。
- ・本人様以外の家族のことの相談がどこに相談すれば良いか。また、相談しても良いかが分かった。
- ・他制度を知ること、知ること理解でき、知識が深まる。その中で横のつながりもできるとさらに知識が増えて支援にも幅が増える。
- ・以前 つむぎに繋げた事例はありましたが今回参加させて頂いてつながりの事を知って本当に良い研修でした。
- ・金銭管理の出来ない家族や就労に関して生活自立相談支援センターに相談する事で、もう少し深く介入出来るかもしれないと感じた。
- ・実務に即した事例の紹介だったので、連携の仕方がわかりやすく理解ができた。導入から支援の活かし方のイメージがしやすかった。
- ・多職種連携の必要性を感じました。今日紹介のあった生活自立支援センターや障がい者相談支援センターの方々とも気軽に相談できる関係性を構築し、今後につなげていきたいと思いました。
- ・利用者本人だけではなくその方を支えるご家族の支援も必要になる為、基本的に親の年金に依存させないような支援をし、またご本人自身も就労を妨げての支援要求もなるべくしない様にし、子事態の今後の生活が社会的に自立出来る様に助言を、地域包括、繋がり、成年後見人制度、福祉課、社会福祉課等の援助も受け支援したい。
- ・つながりや障がい者相談支援センターへ相談し利用者への就労支援や金銭面についての相談をすることで良い方向へつながるケースがあると学んだ。あまりそういうところと連携したことがないので今後そういう就労や金銭面等の困りごとがあったら相談していきたいと思う。
- ・自立支援に向けての相談窓口として「つながり」や「障害者相談支援センター」があるということが分かり、社会資源として活用できることがわかった。
- ・ブレイクアウトルームで同地域の居宅の方と一緒に、顔の見える関係ができ良かったです。施設の場合相談員が窓口になる為なかなか顔を合わせる事が少なく、これからも研修会に参加していきたいと思います。
- ・本人様以外の家族についてのかかわり方、どこに相談すれば良いか、また、障がい者であれば、障がい者の支援窓口でも相談できるとわかり、ホッとしました。こういう窓口もあるよ等介護保険以外のサービスがもっと知れば良いと思いました。
- ・とても分かりやすかったが、少し資料があると後から自己学習を深めていくうえでもありがたいと思った。